



和's YAMATO

(わづやまと)

2024
初春号

- 写真で楽しむ群馬の自然「ロウバイと妙義山」
- 生活を彩るレジャー施設 横浜市本牧市民プール
- 写真で楽しむ群馬の自然「ロウバイと妙義山」



「『春さきに』マンサクとジョウビタキ」F6号 須藤和之 画
ヤマトビオトープ園にて

写真で楽しむ 群馬の自然



ロウバイと妙義山



住所: 群馬県安中市松井田町

撮影 藤重 朋紀 氏
略歴 1952 群馬県利根郡みなかみ町生まれ
1971 群馬県立渋川高等学校卒業
1972 東京写真専門学院中退

1979 コマーシャルフォトスタジオ創美社入社
2001 フリー
2010 写真集「上州路・一本桜」
2011 写真集「上州路」

須藤 和之 Kazuyuki sutoh プロフィール PROFILE

表紙の絵『春さきに』マンサクとジョウビタキ

1981年 群馬県前橋市生まれ
2005年 多摩美術大学絵画学科日本画専攻卒業 2007年 東京藝術大学大学院 美術研究科 文化財保存学専攻 保存修復日本画修了 2010年 同大学大学院 保存修復日本画博士課程修了 博士号取得 博士審査展 お仏壇のはせがわ賞特別賞 個展(画廊翠巒)(同2011~20) 2011年 中央電機商会カレンダー原画(2011~21) 2013年 アーツ前橋開館記念展「カゼイロノハナ・未来への対話」出品、群馬銀行創立80周年記念 収蔵作品「群馬の四季」制作、慶應義塾大学非常勤講師(2013-2020) 2014年 個展(日本橋三越本店) (同2017,20) 2017年 群馬県展 県知事賞 2016年 個展(株式会社ヤマト) 2019年 高崎市タワー美術館トップランナーⅢ出品 2020年 上毛芸術奨励賞受賞 2022年 個展(株式会社ヤマト) 現在 日本美術院院友
OFFICIAL WEBSITE:SUTOOO.NET URL: <http://sutooo.net/>



和's YAMATO (わづやまと) 初春号 2024 (第59号)

【和's yamato】の由来

ヤマトの漢字の「和」、Water&Airの頭文字を合わせて「WA」、「S」はスタート。

和's YAMATO 初春号 2024年(令和6年)1月発行

発行:株式会社ヤマト(広報室)群馬県前橋市古市町118 tel:027-290-1891 fax:027-290-1896

建設プロダクト  ヤマト

株式会社ヤマト 群馬県前橋市古市町118 〒371-0844 TEL.027-290-1800(代) FAX.027-290-1896

支店/東京、埼玉、栃木、横浜、千葉、高崎、東北 営業所/軽井沢、伊勢崎、神奈川県央、茨城、太田、東松山、新潟、長野、渋川、川口、多摩、横須賀、滋賀、青森
附属施設/大和環境技術研究所、大和分析センター、加工センター、朝倉工場、教育センター、コンタクトセンター、サポートセンター、プロダクトセンター
ヤマトホームページ <https://www.yamato-se.co.jp/>



源氏物語と藤原氏

世界的な文学作品を生んだ平安時代

物語の天才 紫式部

紫式部がいつ誕生したかは不明で、天禄元年(970)～天元元年(978)の間とされており、天延元年(973)時(ふじわらのためとき)で、下級貴族の学者だった。宮中役人の人事や学問を扱う役職の「式部丞(しきぶのじょう)」を務め、学者出身者の出世コースだった。母は摂津守の藤原為信の娘で、紫式部が4歳の頃に病没し、式部は父に養育される。式部は漢文の才に恵まれ、父の為時はこの子が男だったら立派な学者になつただろう、と嘆いたという。兄の惟規(のぶのり)よりも漢文を覚えるのが早かつたという逸話が残っている。

寛和(かんな)2年(986)、為時が仕えていた花山(かざん)天皇は藤原兼家の策略で退位させられ(寛和の変)、為時は不遇となり、無官となる。為時(ふじわらのもとつね)が初めて閑白(天皇が成人しても政治を補佐)に就く(摂関政治)。

世界最古の小説 源氏物語の魅力

『源氏物語』は、世界最古の長編小説といわれている。全54巻に及び、登場人物は500人を超える。この超大作を女性が書き、漢語を使わずひらがなで書かれていることも特筆に値する。

は清貧に甘んじるが、紫式部に文学を教える時間を多く取ることができ、その才能をさらに伸ばすことにつながらると推察される。

長徳2年(996)、紫式部は父が再び任官し、越前に下向(転勤)したため同行したが、翌年には単身で上京し長徳4年に結婚、長保3年(1001)に夫が死去した29歳頃から源氏物語を書き始め、藤原道長の娘・彰子の世話を役として宮廷に入つてからも執筆を続けたとされている。

藤原氏の摂関政治

藤原氏は大化の革新を推進した中臣鎌足(なかとみのかまたり)が天智天皇から藤原姓を賜つたのが始まり。その子孫の藤原不比等(ふひと)は大宝律令の編纂に携わり、娘を天皇の妃にして皇室と姻戚関係を結び、政治を主導した。その後、不比等の4人の息子を祖とする藤原氏の南家(なんけ)、北

族たちの因果や宿命などを仏教の世界を基礎に描いている点が高評価の所以とも考えられる。また、貴族社会の恋愛物語の部分や、王権と宮廷政治を詳細に描写した物語にもなつておらず、現在も翻訳され世界中で読まれている。なお、紫式部が書いた原本は現存せず、中世以降の写本のみ存在する。藤原道長に執筆を依頼されていたと推定される。

京都御所紫宸殿



紫式部と藤原道長の略年表

康保3年(966)	藤原道長	藤原兼家五男として誕生
天延元年(973)	紫式部	藤原為時 次女として誕生
長徳2年(996)	紫式部	24歳
長徳3年(997)	紫式部	25歳
長徳4年(998)	紫式部	26歳
長保元年(999)	紫式部	27歳
長保3年(1001)	藤原道長	34歳
寛弘3年(1006)	紫式部	29歳
寛弘5年(1008)	藤原道長	43歳
寛仁元年(1017)	藤原道長	52歳

寛弘5年(1008)	藤原道長	43歳
寛仁元年(1017)	藤原道長	52歳

紫式部がいつ誕生したかは不明で、天禄元年(970)～天元元年(978)の間とされており、天延元年(973)時(ふじわらのためとき)で、下級貴族の学者だった。宮中役人の人事や学問を扱う役職の「式部丞(しきぶのじょう)」を務め、学者出身者の出世コースだった。母は摂津守の藤原為信の娘で、紫式部が4歳の頃に病没し、式部は父に養育される。式部は漢文の才に恵まれ、父の為時はこの子が男だったら立派な学者になつただろう、と嘆いたという。兄の惟規(のぶのり)よりも漢文を覚えるのが早かつたという逸話が残っている。

寛和(かんな)2年(986)、為時が仕えていた花山(かざん)天皇は藤原兼家の策略で退位させられ(寛和の変)、為時は不遇となり、無官となる。為時(ふじわらのもとつね)が初めて閑白(天皇が成人しても政治を補佐)に就く(摂関政治)。

宮廷政治家の雄 藤原道長

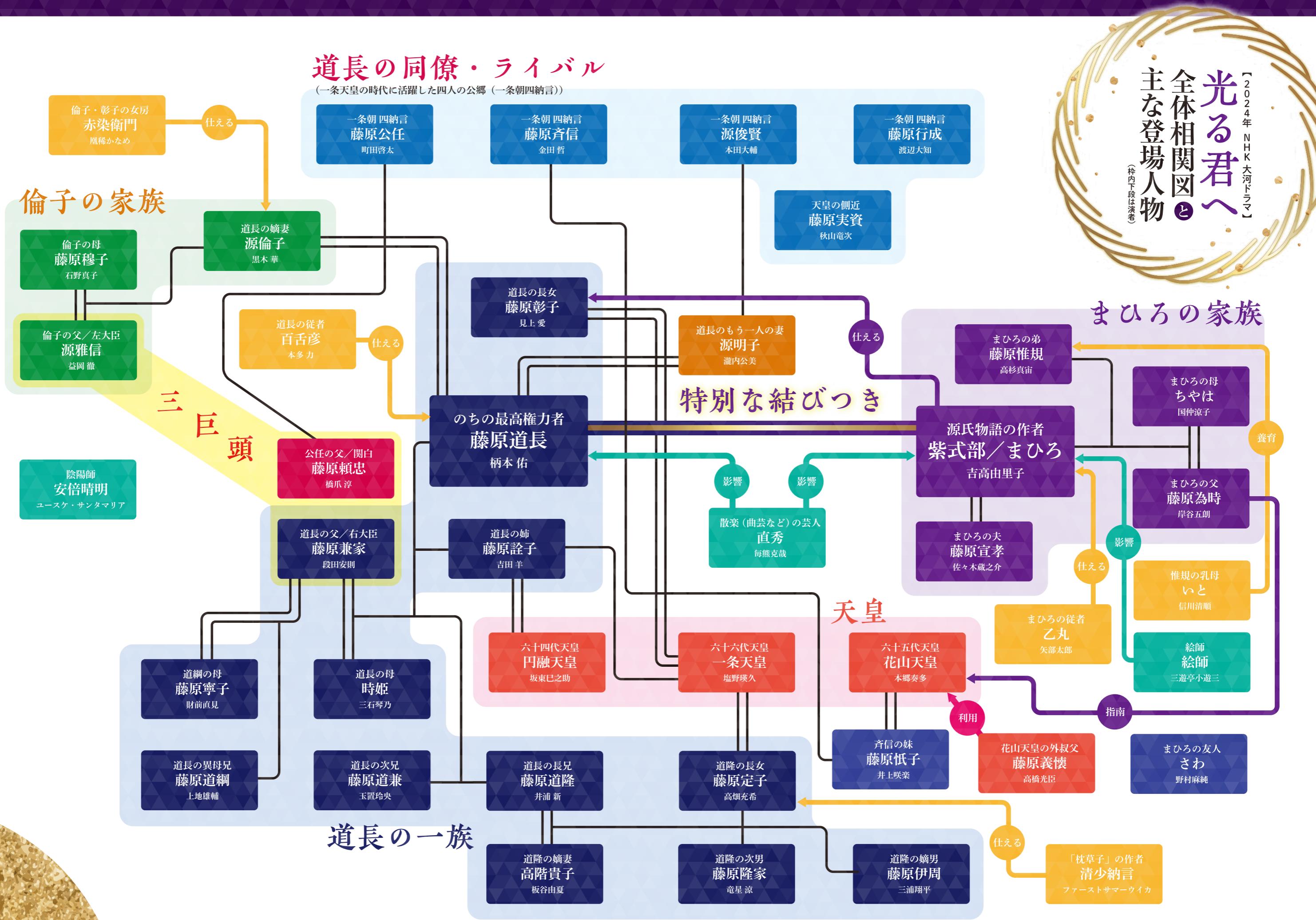
藤原道長の父・兼家は、藤原氏内の権力争いで優位になり、天元元年(978)に娘の詮子(あきこ)を円融天皇に嫁が

紫式部がいつ誕生したかは不明で、天禄元年(970)～天元元年(978)の間とされており、天延元年(973)時(ふじわらのためとき)で、下級貴族の学者だった。宮中役人の人事や学問を扱う役職の「式部丞(しきぶのじょう)」を務め、学者出身者の出世コースだった。母は摂津守の藤原為信の娘で、紫式部が4歳の頃に病没し、式部は父に養育される。式部は漢文の才に恵まれ、父の為時はこの子が男だったら立派な学者になつただろう、と嘆いたという。兄の惟規(のぶのり)よりも漢文を覚えるのが早かつたという逸話が残っている。

寛和(かんな)2年(986)、為時が仕えていた花山(かざん)天皇は藤原兼家の策略で退位させられ(寛和の変)、為時は不遇となり、無官となる。為時(ふじわらのもとつね)が初めて閑白(天皇が成人しても政治を補佐)に就く(摂関政治)。

紫式部がいつ誕生したかは不明で、天禄元年(970)～天元元年(978)の間とされており、天延元年(973)時(ふじわらのためとき)で、下級貴族の学者だった。宮中役人の人事や学問を扱う役職の「式部丞(しきぶのじょう)」を務め、学者出身者の出世コースだった。母は摂津守の藤原為信の娘で、紫式部が4歳の頃に病没し、式部は父に養育される。式部は漢文の才に恵まれ、父の為時はこの子が男だったら立派な学者になつただろう、と嘆いたという。兄の惟規(のぶのり)よりも漢文を覚えるのが早かつたという逸話が残っている。

寛和(かんな)2年(986)、為時が仕えていた花山(かざん)天皇は藤原兼家の策略で退位させられ(寛和の変)、為時は不遇となり、無官となる。為時(ふじわら



江戸時代から賑わう上野の山 京都の名所はなぜあるのか

江戸時代の末まで上野の寛永寺は、今の上野公園はもちろん、その周辺にも堂塔伽藍や子院が立ち並ぶ文字通りの巨刹で、徳川將軍家ゆかりの寺としてふさわしい威容を誇っていた。それが明治維新の際の上野戦争で大半が炎上してしまい、その後明治政府の命令により、境内は大幅に縮小された。現在の寛永寺は、本堂が東京国立博物館の北西側に位置し、境内敷地3万坪（江戸時代の約10分の1）のお寺である。

さて、上野の地に東叡山寛永寺がつくられたのは、元和8年（1622）、徳川幕府二代将軍秀忠がこの地を天台宗の僧天海に寄進し、翌9年に白銀五万両と高輪御殿の建物を寄付したことから始まる。東叡とは「東の比叡」を意味し、延暦寺のような天台宗の大拠点を関東に築くために建てられた。だが、寛永寺は最初から幕府お抱えの寺だけではなかった。天海は寛永寺建立にあたって、宗派はもちろんのこと、本尊を薬師如来にするな

に残る最古の建物の一つとして今もなお健在で、観音信仰だけでなく、人形供養などで、不忍池の弁天様とともに今も多くの人々の信仰を集めている。

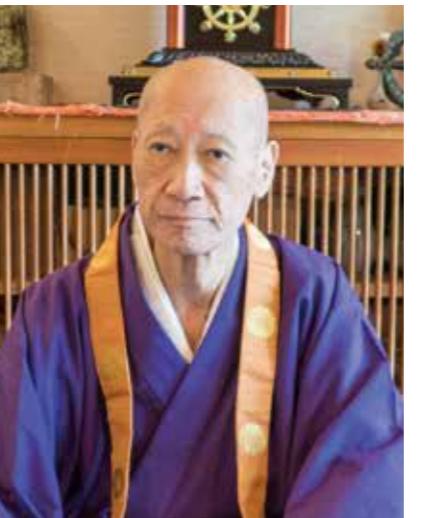
創建当初の寛永寺は、100ペーセント幕府のお抱えというよりも、半分は天海自身のプライベートな寺という性格を持ち合わせていた。そのためか、幕府による援助も、建立が決まった時に秀忠が与えた土地と五万両、御殿の建物だけであり、家光、家綱の時代にはまったく援助が無かつたために、財政的にも厳しい状態であった。

このような財政的にも厳しいなかで、なぜ天海は京滋の名所の写しを作ったのだろうか。これに対する明確な史料はないから、まったくの私の想像

ど、公的な部分は徹底的に延暦寺を模倣したが、それとは別に近江（滋賀）や山代（京都）の名所を意識した堂宇をたくさん建立した。

たとえば京都清水寺の觀音に倣った清水觀音堂、京都八坂の祇園様（現・八坂神社）に倣った祇園堂、琵琶湖竹生島の弁財天に倣った不忍池の弁天堂などで、その本尊もわざわざ現地から勧請している。単なる堂宇であれば、何も関西からなく関東近在から勧請すればよいのである。たとえば觀音様は同じ天台宗の浅草寺があるし、弁天様なら同じく天台宗の井の頭の弁天様や、千葉の布施、あるいは江の島からでもよいわけである。それをわざわざ近江、山城などにある、いわゆる当時の名所を勧請してきたのは、本格的に京滋の名所を江戸の地に移したかったからだろう。

このうち祇園堂は、いま精養軒のあるところに建つていたもので、残念なことに明治維新の直後に取り壊されてしまったが、清水觀音堂は上野の山



**東叡山 輪王寺門跡 門主・寛永寺貫首
浦井 正明(うらい しょうみょう)師**
昭和12年（1937）東京生まれ。昭和36年（1961）慶應義塾大学文学部史学科卒業。東叡山現龍院前住職。寛永寺執事長、台東区教育委員会委員長、台東区文化財保護審議会委員等を歴任。



慈眼大師天海大僧正 肖像画(現龍院蔵)
壯年期の御姿で、現存する中では貴重な肖像画



不忍池の蓮と辨天堂

が所蔵する「江戸風俗図巻」中の浅草の図を見てわかるように、享保6年(1721)の時点でも仲見世はなお仮店舗が多い状態だったのだから、それよりも一世紀近くも前の浅草の状況は推して知るべしである。

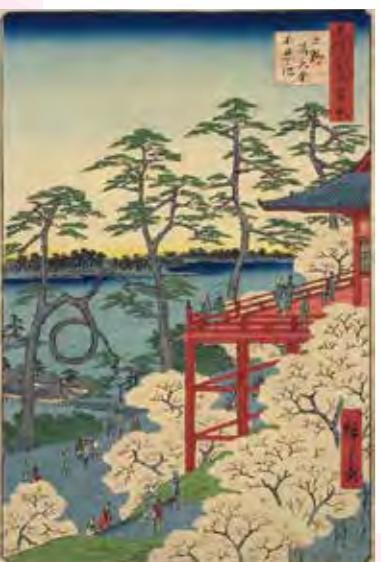
そんな江戸の街に、京滋の名所を写し替えて庶民を楽しませようという発想は、おそらく京都奈良の名刹古刹が修行の場であるとともに、行樂をも伴つた庶民の素朴な信仰心を受け入れる場であること、天海が意識したものに相違ない。これと対照的なのが、徳川家の菩提寺の増上寺である。江戸の名所として増上寺が取り上げられることが比較的少ないとからもわかるよう、純粹の官寺であれば一般庶民の信仰との縁は希薄となざるを得ないが、こうした官寺としてのある種の冷たさを寛永寺に持ち込むことを、天海は避けたかったのではないか。

天海は堂宇だけではなく、上野の山の植生にも配慮している。後に根本中堂が建てられた現在の中央噴水広場の周囲に赤松を植え、その他にも紅葉を植えて錦小路をつくり、不忍池を放生池として紅白の蓮を咲かせ、さらにわざわざ奈良の吉野から桜の苗木を取り寄せるという、交通手段が現在とは比較にならないほど不便だった当時としては、途方もなく贅沢なことをしてまで、今でいうところの自然環境と景観保護に努めている。

上野の山の桜は、江戸時代、三代将軍家光の時代



上野公園のお花見



上野山王山・清水観音堂花見・不忍池全図 中島弁財天社
絵師:一立斎廣重 出典:国立国会図書館「錦絵でたのしむ江戸の名所」



上野大仏

寛永8年(1631)に初建された上野の大仏様は度々罹災しましたが、その都度復興されています。しかし関東大震災によりお首が落ち、第二次大戦時には軍の供出令(きょうしゅつれい)により胴体を徵用されて、お顔のみが残されました。大仏殿の跡地にはパゴダ(仏塔)が建立され、本尊として旧薬師堂本尊の薬師三尊像が祀られています。

清水観音堂
清水観音堂は、寛永8年(1631)年に天海大僧正によって建立されました。天海大僧正是江戸城の鬼門の守りを意図し、比叡山や京都の有名寺院になぞらえた堂舎を次々と建立しました。清水観音堂は京都の清水寺を見立てたお堂で、清水寺と同じ舞台作りで、初めは上野公園内の「擂鉢(すりばち)山」に建てられました。しかし元禄初期、今の噴水広場の地に、寛永寺総本堂の根本中堂建設が決まるとき、その工事に伴って元禄7年(1694)9月に現在地に移築されました。上野の山に現存する、野の山に現存する、創建年時の明確な最古の建造物です。平成2年(1990)12月から文化財保存修理が行われ、平成8年(1996)10月に竣工、元禄移築時の面影を再現しました。上野指定重要文化財です。



こうした天海の努力はやがて急速な上野の名所化を招き、上野はたちまち江戸きつての名所となり、それに伴つて前町(下谷広小路)も発達し、さらに山下(現・JR上野駅付近)という盛り場も生まれ、今日に至っている。もちろん天海の時代と風景は一変しているが、上野の山を名所にしたいという天海の希望は実現したことになる。

その天海は、死後に「慈眼大師」の号を追贈され、かねて自らが深く帰依していた「元三慈惠大師(良源大僧正)とともに両大師として、現在の両大師堂(開山堂・慈眼堂ともいう)に祀られている。そこから天海は、現在の上野の変わり様を、いつたいどう思つてみているのだろうか。

不忍池辯天堂
不忍池辯天堂(しのばずのいけべんてんどう)は、江戸初期の寛永間に、天海大僧正によって建立されました。天海大僧正是天然の池であつた不忍池を琵琶湖に見立て、また元々あつた聖天(しょうてん)が祀られた小さな島の側に水谷伊勢守(みゆのやいせのかみ)勝隆(かつたか)公と相談して大きな島を作り、そこに竹生島の「宝嚴寺(ほうごんじ)」に見立てたお堂を建立したのです。琵琶湖と竹生島に見立てられたため、当初はお堂に参詣するにも船を使用していましたが、参詣者が増えるにともない寛文年間に橋がかけられました。昭和20年(1945)の空襲で一帯は焼けてしましましたが、お堂は昭和33年(1958)に復興し、また昭和41年(1966)には芸術院会員であった児玉希望(こだまきぼう)画伯による龍の天井絵が奉納されました。



の末頃から知られるようになり、四代將軍家綱の頃にはかなり有名なものになっていたようだ。時代は降るが、天保年間の「江戸名所花曆」には、上野の桜として、多種の桜が図入りで紹介されている。そして、このように、名所化した上野を描いた江戸八景、東都八景、江都八景などを始めとするさまざまな絵画史料には、花見に興ずる人々の姿が描かれている。現在の上野公園も、花見時にはたくさんの人が訪れ、ひどく賑やかになるが、これは江戸期も同様で、官寺としての性格が強まつても将军家の葬礼を行つた後などの時期を除けば、三味線など鳴り物を持って歌舞音曲付きで花見を楽しむことを許された時期さえあつた。

こうした天海の努力はやがて急速な上野の名所化を招き、上野はたちまち江戸きつての名所となり、それに伴つて前町(下谷広小路)も発達し、さらに山下(現・JR上野駅付近)という盛り場も生まれ、今日に至っている。もちろん天海の時代と風景は一変しているが、上野の山を名所にしたいという天海の希望は実現したことになる。

その天海は、死後に「慈眼大師」の号を追贈され、かねて自らが深く帰依していた「元三慈惠大師(良源大僧正)とともに両大師として、現在の両大師堂(開山堂・慈眼堂ともいう)に祀られている。そこから天海は、現在の上野の変わり様を、いつたいどう思つてみているのだろうか。

山名古墳群

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団 主任調査研究員 平方篤行

『群馬県古墳総覧』(平成二十九年刊行)によると、群馬県には実に三〇〇〇基を超える古墳があると記載されています。県内各地に古墳が点在していることから、群馬県に住んでいると、古墳は身近な存在ではないでしょうか。それらの中から、今回は山名古墳群を紹介します。

山名古墳群は、東流する鏑川の左岸、觀音山丘陵の南端に接する水田地帯に立地します。高崎市市街地からは、南東五・五kmに位置します。山名古墳群の周辺には、分布調査や発掘調査で、六七基の古墳の所在が確認されています。このうち高崎市指定史跡とされた区域には、一七基(高崎市HPによる)の古墳が現存しています。前方後円墳二基、帆立貝形古墳二基、円墳二五基で、後世の耕作などで失われたものも多数あったと想定でき、史跡区域を超えて、更に広い範囲に古墳が所在しています。古墳の分布をみると、ほぼ中央に低地があり、南北に古墳群が分かれています。南側古墳群にある帆立貝形古墳

土したとも伝わっていて、これらから五世紀後半に建造された前方後円墳である可能性があります。すると、古墳群の始まりが半世紀ほどさかのぼることになります。

古墳群の中の少数の古墳は発掘調査によって実態が判明しています。原口II遺跡の調査では二基の古墳が発掘されました。一号墳では、周堀から多数の埴輪が出土しました。墳丘に馬形埴輪、器材埴輪、人物埴輪などが並んでいたことが確認されています。石室の羨門近くから歯のある埴輪が出土しています。この埴輪は盾持ち人とみられています。盾持ち人埴輪は、古墳に背を向けて外敵を阻むよう配置されます。目は大きく見開かれ、口や鼻孔には石英質の石を埋め込んでいます。この埴輪の表情は歯を剥きだして威嚇するかのようです。今も首長が葬られた神聖な古墳を守っているのでしょうか。歯を表現した埴輪は類例が少なく、大変貴重です。

二号墳は山名伊勢塚古墳の北二〇mほどのところにあります。埴輪は全く出土せず、玄室から鉄鎌、銀象嵌鉄製鞘尻、鉄製挂甲小札、金銅製鉢など数多くの遺物が出土しました。筆者も発掘調査に参加していて、実測図を作成した後、遺物を取り上げたときに、この金銅製鉢が、軽やかな音を響かせたことを覚えていました。この二号墳の石室には特徴があります。側壁が三〇～六〇cmの自然石と細長い棒状の石を組み合わせた模様積みになります。石の組み合せで飛白模様のよう

は、墳形から六世紀前半に建築されたと考えられます。その後周囲に古墳が建築され、南側古墳群の形成が始まったと考えられます。発掘調査などにより北側古墳群は、六世紀後半から始まり七世紀を中心にして建築されたと考えられます。

この古墳群に現存する前方後円墳は、山名伊勢塚古墳基のみです。現況で全長六四mと古墳群で最大です。頭椎大刀や勾玉が出土したとする記録があり、遺物から六世紀後半ごろ建築されたと考えられます。また凝岩の削石積横穴式石室であることがわかつています。南北二つの古墳群が接する西端に山名伊勢塚古墳があります。この様に山名古墳群は、六世紀の前半ごろから南側の古墳群がつくられ、次に北側の古墳群がつくられ形成されましたと考えられます。山名伊勢塚古墳の南西三〇〇mに、頂上に祠がある古墳、稲荷塚古墳があります。付近に住む方々の話では「元は大きい土山で、崩したら土山の中央から赤土が大量に出た。」また、舟形石棺が出

ています。この古墳群に現存する前方後円墳は、山名伊勢塚古墳基のみです。現況で全長六四mと古墳群で最大です。頭椎大刀や勾玉が出土したとする記録があり、遺物から六世紀後半ごろ建築されたと考えられます。また凝岩の削石積横穴式石室であることがわかつています。南北二つの古墳群が接する西端に山名伊勢塚古墳があります。この様に山名古墳群は、六世紀の前半ごろから南側の古墳群がつくられ、次に北側の古墳群がつくられ形成されましたと考えられます。山名伊勢塚古墳の南西三〇〇mに、頂上に祠がある古墳、稲荷塚古墳があります。付近に住む方々の話では「元は大きい土山で、崩したら土山の中央から赤土が大量に出た。」また、舟形石棺が出



今井ひさ子

美術研究家 染谷 滋

時空を超えた宙に、透明な光を求めて

プロダクトセンターの『極光』

ヤマト本社に二〇二〇（令和二）年秋開設されたプロダクトセンターのエントランスには、染織作家今井ひさ子の『極光』と題された作品が展示されている。ろうけつ染の技法で透明感のある色彩を追い求めている今井の代表作のひとつで、一九九九（平成二）年の第85回光風会展で特別記念賞を受賞した作品だ。

オーロラを自分の目で見たいと思っていた今井は、アメリカ在住の旧友に誘われてアラスカに旅をした。氷点下30度の寒さの中、小さな山小屋でオーロラの出現を待ち、「一日目の夜にこの自然界の奇跡を堪能した。それは今井が表現したいと思っていた、色彩の耀きそのものだつたに違いない。

光風会での受賞以来、本作は様々な機会で展示されきたが、ヤマトに収蔵されて安住の地を得たようだ。

夫の転勤で神戸から前橋へ

今井ひさ子は一九四七（昭和二二）年神戸に生まれた。現在の神戸市東灘区で阪急岡本駅の近くだった。昔は建ち並ぶビルもなく、坂を下った向こうに瀬戸内の海がよく見えたという。砂浜で貝殻拾いをして遊んだ記憶があ



極光(染色) タテ 162cm × ヨコ 112cm

り、瀬戸内海が原風景だと語っている。

母のもとに訪れて来る京都からの行商人が、美しい反物を次々と広げていた思い出が染色を志す遠因となつた。兵庫女子短期大学（現在の兵庫大学短期大学部）で染色を学んだが、在学中から大阪市立美術館を会場とした全関西美術展や大阪工芸展、兵庫県立近代美術館での兵庫県美術展などに出品して、染色作家としての実績を積み重ねている。

26歳で結婚。夫は京都に本社を持つ日新電機株式会社に勤務していたが、前橋製作所に転勤となり、一九七四（昭和四九）年の春、前橋に転居した。

見知らぬ土地での生活に、好きな染色を続けることで地域との繋がりを求めた今井は、一九七五年の第26回群馬県美術展に初出品するとたちまち注目を集め、翌年に

は県教育長賞、翌々年に知事賞を受賞して県美術会の準会員に推挙。一九八一年には会員へと歩みを進めている。

「ろうけつ染一筋に」

今井が愛用するろうけつ染は、型染や絞り染と並ぶ代表的な染色技法だ。生地に蠶をおくことで防染するものだが、今井のように多数の色彩を使うためには、蠶を

地域との繋がりを求めた今井は、一九七五年の第26回群馬県美術展に初出品するとたちまち注目を集め、翌年に

は県教育長賞、翌々年に知事賞を受賞して県美術会の準会員に推挙。一九八一年には会員へと歩みを進めている。

枚挙に暇がない。

県内でも一九九四（平成六）年の第45回県美術展で山崎記念特別賞を受賞すると、翌一九九五年には前橋の煥乎堂で県内初となる個展を開催し、同時に上毛芸術奨励賞を受賞した。

この頃が今井の作家としての実力を確立した時期とみてよいだろうが、その一方で悲しい出来事もあった。一九九五年一月の阪神淡路大震災で、今井の故郷が壊滅的な被害を受け、実家も全壊した。幸い住んでいた母や兄の家族は無事だったが、亡くなつた友人もいた。

以前、花をテーマにしていた今井は、次第に雲や風や光などの雄大な自然をモチーフにするようになった。

「宙」を追い求めて

今井ひさ子のアトリエを訪問すると、その意外な狭さに驚いた。それでも効率的に作業できる工夫が至る処に施され、長年の知恵と経験が染み込んだ空間に、張り詰めた空気が感じられた。入り口の天井近くに二枚の幼稚園児の絵が飾られていて、この部屋の主が二人の娘を立派に育てあげた母親でもあることを伝えている。

以前、花をテーマにしていた今井は、次第に雲や風や光などの雄大な自然をモチーフにするようになった。

「天空の友」に捧げた作品や瀬戸内の海、神戸の青空を描く中で、「宙」というテーマが生まれてきた。

今井が飛行機での浮遊感について記した文章がある。身体は狭い座席に静止したまま、窓の外には雲海が広がり、魂が果てしない空間をさまよう。「天空に飛び立つ私は、时空を越えて深い闇の中に吸い込まれ」「それは同時に、私の内なる宙へと向つていく」と。

おそらく今井にとって「宙」は「魂」と同義だったに違いない。

染色作家の地位を確立

今井は一九七九（昭和五四）年から光風会の工芸部に出品している。光風会は一九一二（明治四五）年に第一回展を開催した非常に歴史ある団体で、戦前から工芸部が作られ、現在でも絵画部と工芸部からなる公募団体だ。

その由緒ある光風会で今井は頻繁に受賞している。第75回展での記念大賞、第80回展での会員賞に続いて三度目の受賞となつたのが『極光』だった。その後も第92回展の杉浦非水記念賞、第104回展の三橋國民記念賞と

塗つて染色し、その蠶を洗い流すという作業を何度も繰り返さなければならぬし、油絵のように描き直すことほぼできないから、染める順番や蠶で防染する場所を間違えずに作業を進めなければならない。通常の作品で30以上の工程が必要となる厄介なものだ。

『極光』を例に取れば、原寸大の着色した下絵が準備され、最初に蠶をおくのは光り輝く白の部分で、最後に染めるのが夜空の闇の黒の部分だ。布地に染料を染み込ませて色を着ける染色は、使う染料や素材のことを熟知していないれば思い通りの色彩は生まれない。感性と技術がかみ合つてこそその作品なのだ。

略歴 今井ひさ子 HISAKO IMAI

1947	神戸に生まれる
1967	兵庫女子短期大学（現在の兵庫大学短期大学部）卒業
1968	同大学染色専攻研究課程修了
1974	春・夫の転勤に伴い前橋に転居
1975	第26回群馬県美術展に出品、以後毎年
1977	第28回群馬県美術展で知事賞、県美術会準会員推挙
1979	第65回光風会展に出品、以後毎年（現在理事）
1982	第33回群馬県美術展で県美術会会員推挙（現在常任理事）
1989	第75回光風会展で記念大賞受賞
1991	光風会工芸部「明日へのかたち展」に出品、以後毎年
1994	第80回光風会展で会員賞受賞
1995	第45回群馬県美術展で山崎記念特別賞受賞 前橋・煥乎堂で県内初個展、以後各地
1996	チエコ「日本の染展」に招待出品
1997	富岡市立美術博物館で個展（2002年にも開催）
1999	第85回光風会展で特別記念賞受賞
2006	第92回光風会展で杉浦非水記念賞受賞
2015	前橋市教育文化功労者表彰
2018	第104回光風会展で三橋國民記念賞受賞

横浜市本牧市民プール

横浜市本牧市民プールが2023年7月8日にリニューアルオープンしました。プールの営業は9月3日までで、約11万8千人の来場があり、大盛況でした。プール営業終了後は、アウトドアイベントやキャンプ教室、カヤック体験などが行われ、年間を通じて利用できる施設となっています。

建設プロダクトのヤマトは、同プールの指定管理者・本牧ベイパーク株式会社の構成企業で、本リニューアル工事の設備工事を担当し、今後10年間の運営にも携わります。



オープン記念式典のテープカット



渚プール、アトラクション、管理棟



施設名：横浜市 本牧市民プール

所在地：神奈川県横浜市中区本牧元町46番1号

敷地面積：20,737.25m²

指定管理者：本牧ベイパーク株式会社

指定管理期間：令和5年7月1日～

令和15年6月30日（10年間）

施設概要：流れるプール、ウォータースライダー、アトラクションプール、BBQエリア

営業時間：9時～17時
Night 18時～20時30分

利用料金：大人1,400円・中学生700円。
(土日祝日及び7・8月平日)

小学生（4歳以上）400円
Night 大人1,000円。

小学生（4歳以上）300円
Night 小学生500円。

駐車場：165台 夏季7時～22時

右記以外 200円/1時間
Night 1,000円/1回

「本牧市民公園前」下車

本牧ベイパーク株式会社

代表取締役 野部幸男

本牧の地は昭和30年代まで、海水浴や潮干狩りが出来る場所として、長い間横浜市民の憩いの場でした。その後、海岸の埋立てにより海水浴が出来なくなったことから、昭和44年に本牧市民プールが開園します。長年市民に親しまれてきたプールでしたが、平成27年に老朽化により、49年間にわたった営業に終止符を打ちます。その後、令和3年9月にPF一事業として横浜市と事業契約をし、令和5年7月にリニューアルオープンすることが出来ました。

リニューアルしたプールは、海水浴場だった本牧の渚をイメージし、全長約240mの流れるプールとスライダー2基をメインに、エアープール2基、大規模なマウンテンスライダー等、以前のプールにも増して楽しめる施設となっています。また、夏季の営業が終了した後は、「SUP」や「カヌー」等の流れるプールを利用した事業や、「キャンプ」、「BBQ」などが出来る場所として1年を通して利用いただける施設になりました。

夏のプール、各種レジャーを通して、皆様の思い出づくりの1ページを飾れる場所を目標して頑張ってまいります。



昭和38年の本牧周辺
赤枠の部分が埋め立てられました



キャンプ教室



カヤック体験

本牧地区の歴史

本牧の地形は、丘と谷戸が入り組んだ地形で、4つの大きな崖があります。丘と谷戸が入り組んだこの地形は横浜の諸地域に見られる特徴ですが、これらは約2万年前と6千年前に起きた地球の気候変動が関係していると考えられています。

幕末にペリーが2度目の来航をした際、本牧沿岸を警備したのが鳥取藩です。本牧には今も鳥取藩家老らが滞在した屋敷の井戸、使用人の墓が残されています。第一次世界大戦では、横浜でも大規模な空襲があり、本牧多くの地域が被災しました。戦後、昭和21年から本牧の大半は米軍の接收地となり、昭和57年まで在日米軍の家族が生活していました。日本に返還された接收地は、住宅地や市民の憩いの場となっています。

